

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・インド等で上方修正されたことから前月から上方修正された。史上最高の見込み。

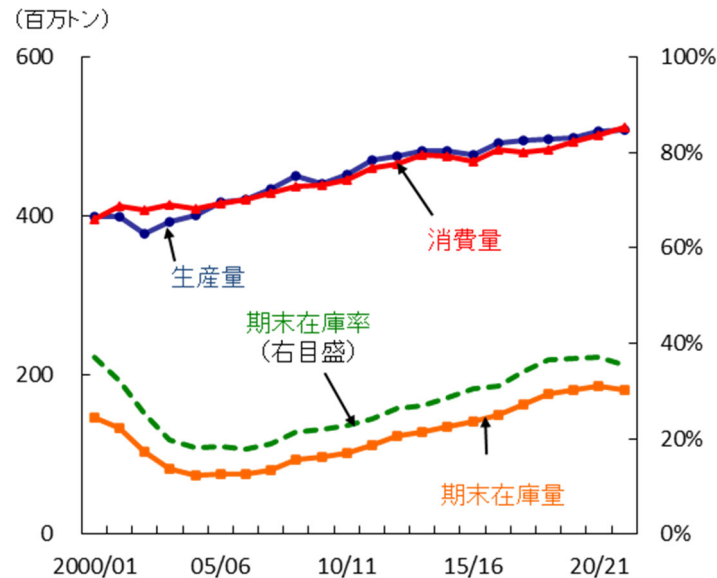
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・インド等で下方修正されたことから前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・インド等で上方修正されたことから前月から上方修正された。史上最高の見込み

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2021.9.10）をもとに農林水産省にて作成

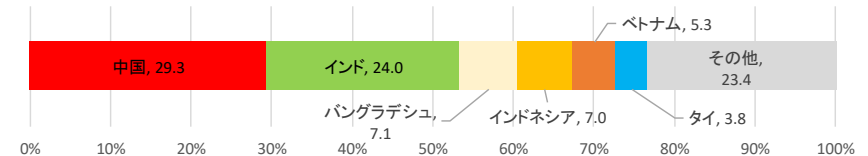
◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

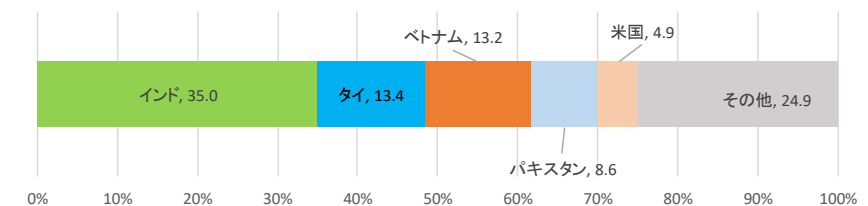
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	498.3	506.2	508.0	0.5	0.3
消 費 量	493.2	502.0	512.1	▲ 2.2	2.0
輸 出 量	43.4	48.5	48.5	0.9	0.1
輸 入 量	42.3	45.9	45.9	0.2	0.0
期末在庫量	181.8	186.0	181.9	11.7	▲ 2.2
期末在庫率	36.9%	37.0%	35.5%	2.4	▲ 1.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 September 2021)

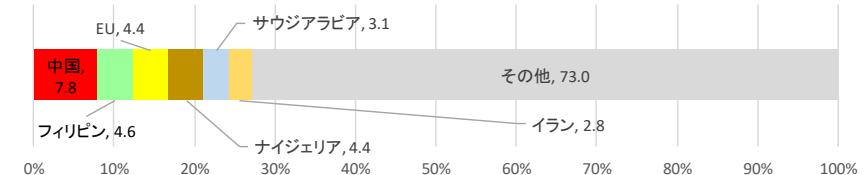
○ 2021/22年度 世界のコメの生産量(508.0百万トン)(単位：%)



○ 2021/22年度 世界のコメの輸出量(48.5百万トン)



○ 2021/22年度 世界のコメの輸入量(45.9百万トン)



(2) 国別のコメの需給動向

< 米国 > 単収増加するも収穫面積の減少により生産量が減少

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、史上第3位の単収となったにもかかわらず、長粒種の産地であるルイジアナ州やミズーリ州、中・短粒種の産地であるカリフォルニア州において収穫面積が下方修正されたことにより、前月予測から0.2百万トン下方修正され、対前年度比16.3%減の6.1百万トンの見込み。中・短粒種の生産量はコメ全体の約19%を占める。

同「Crop Progress」(2021.9.20)によれば、9月19日時点の主要生産6州の収穫進捗率は51%で過去5年間平均(56%)より5ポイント遅れている。長粒種が多いアーカンソー州では47%、中・短粒種が多いカリフォルニア州では18%の進捗率となっている。主要6州の作柄評価は、良からやや良が76%と前年度同期(74%)より2ポイント上回っている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、消費量は前月予測から0.1百万トン下方修正され、対前年度比3.7%減の4.7百万トンの見込み。輸出量は前月予測から変更がなく、対前年度比3.0%減の2.9百万トンの見込み。輸入量は前月予測から変更がなく、対前年度比12.0%増の1.2百万トンで史上最高の見通し。

同「Rice Outlook」(2021.9.16)によれば、9月7日までの週の地中海向けカリフォルニア米(1等、碎米4%混入、国内精米)の価格は、2021/22年産の減産予測を反映し、8月10日までの週より25ドル/トン上昇し、2009年6月以来の高値である1,125ドル/トン。一方、9月7日までの週のイラク向け長粒種(2等、碎米4%混入)の価格については、7月20日までの週以降横ばいで600ドル/トンとなっている(P18の「長粒種のFOB価格の推移」を参照)。

コメー米国

主に中・短粒種はカリフォルニア州、長粒種はミシシッピ川沿いで栽培
全米のコメ生産に占めるカリフォルニア州の生産シェアは約2割

(単位: 百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.9	7.2	6.1	▲ 0.2	▲ 16.3
消費量	4.6	4.9	4.7	▲ 0.1	▲ 3.7
輸出量	3.0	3.0	2.9	-	▲ 3.0
輸入量	1.2	1.1	1.2	-	12.0
期末在庫量	0.9	1.4	1.1	▲ 0.1	▲ 21.6
期末在庫率	12.0%	17.8%	14.4%	▲ 0.9	▲ 3.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	1.00	1.21	1.01	▲ 0.05	▲ 16.5
単収(もみt/ha)	8.38	8.54	8.55	0.10	0.1

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)

写真: アーカンソー州でのコメの収穫風景



アーカンソー州ではハリケーン「アイダ」の影響はほとんどなかった。
9月上旬、温暖で乾燥した天候が続きコメの収穫作業が本格化。

< インド > 2019/20 年度以降の期末在庫を上方修正

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、単収が下方修正されるも収穫面積が上方修正されたことで、1.0百万トン上方修正され対前年度比0.2%減少の122.0百万トンの見込み。2020/21年度の生産量は、インド政府が8月に発表した第4期生産高予測に基づいて前月予測から0.3百万トン上方修正され、122.3百万トンと史上最高となる見込み。コメ生産量の約85%を占め、9月から1月にかけて収穫されるカリフ作は104.4百万トン、3月から6月にかけて収穫されるラビ作は17.9百万トンになる見通し。

同「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2021.9.8及び14)によれば、8月下旬から9月上旬にかけて中部及び南部では降雨があり、9月上旬から中旬にかけては東部でも降雨があったことからカリフ作の土壌水分が改善した。

インド農業・農民福祉省の「2021/22年度第1回生産量推計」(2021.9.21)によると、2021/22年度のカリフ作の生産量は107.0百万トンとなる見通しであり、104.4百万トンであった2020/21年度より2.5%増産となる見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は前月予測から3.0百万トン下方修正され、対前年度比2.3%増の105.0百万トンで史上最高の見通し。2021/22年度の輸出量は、期首在庫の上方修正やバングラデシュからの強い引き合いに基づき前月予測から1.0百万トン上方修正され、対前年度比10.5%減の17.0百万トンの見通しも史上2番目の高水準。一方で、新型コロナウイルスの影響緩和のため2019/20年度に国民に対して無償又は低価格でコメの配給や販売を実施したものの、結果としてコメの消費量全体が2019/20年度に遡って下方修正され、2019/20年度及び2020/21年度の期末在庫量が上方修正されたことにより、2021/22年度の期末在庫量が前月予測から11.6百万トン上方修正され34.5百万トンになる見通し。

USDA「Rice Outlook」(2021.9.14)によれば、インド産米(碎米5%混入)の9月7日までの週の価格は8月10日までの週より10ドル下落し370ドル/トン(P18の「長粒種のFOB価格の推移」を参照)。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

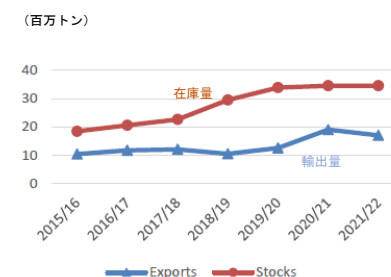
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	118.9	122.3	122.0	(123.8)	1.0	▲ 0.2
消 費 量	102.0	102.7	105.0	(107.6)	▲ 3.0	2.3
輸 出 量	12.5	19.0	17.0	(15.6)	1.0	▲ 10.5
輸 入 量	0.0	0.0	0.0	(0.0)	-	-
期末在庫量	33.9	34.5	34.5	(25.7)	11.6	-
期末在庫率	29.6%	28.4%	28.3%	(20.8%)	9.8	▲ 0.1

(参考)

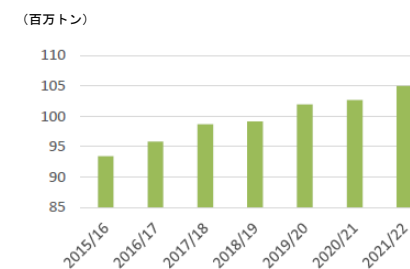
収穫面積(百万ha)	43.66	45.00	45.00	(44.75)	0.60	-
単収(もみt/ha)	4.08	4.08	4.07	(2.77)	▲ 0.02	▲ 0.2

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)
IGC「Grain Market Report」(26 August 2021) (単収は精米t/ha)

グラフ: インドのコメ輸出量と在庫量の推移



グラフ: インドのコメ消費量の推移



資料: USDA「Grain: World Markets and Trade」(2021.9.10)

< 中国 > 前月予測から変更なくも生産量・消費量ともに史上最高

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の実産量は前月予測からの変更はなく、対前年度比0.5%増の149.0百万トンで史上最高の見込み。

中国中央気象台（2021.9.3）によれば、8月26日から9月1日の間に、二期作早稲は収穫を完了し、二期作晩稲は湖北、湖南、江西、広西、広東、海南等地域の大部分は分けつから節間伸長期に入っており、一部は穂孕み期に入っている。全国二期作晩稲の一、二類の苗の割合は20%と80%で、前年同期（10%と88%）比、一類は10ポイント向上し、二類は8ポイント低下している。また、一期作稲は江蘇、安徽、浙江等地域の大部分は節間伸長から出穂期に入っており、黒龍江、吉林、遼寧、湖北、四川、貴州、雲南等地域の大部分は出穂から乳熟期に入っている。全国の一期作稲の一、二類の苗の割合は33%と64%で、前年同期（26%、73%）比、一類は7ポイント向上し、二類は9ポイント低下している。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の実消費量は前月予測からの変更はなく、対前年度比3.6%増の155.7百万トンで史上最高の見込み。

USDAによれば、2021/22年度の実輸出量は前月予測からの変更はなく、前年度比8.1%増の2.4百万トンの見込み。2021/22年度の実輸入量は前月予測からの変更はなく、対前年度比14.3%減の3.6百万トンの見込み。

同「Grain: World Markets and Trade」（2021.9.10）によれば、近年、中国の中粒種は、米国や豪州など競合国の3分の1程度の価格により、エジプトにとって特に中粒種の主要な輸入元国になっている。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報」（2021年7月）によれば、7月、夏場に入り、米の消費がオフシーズンに入ったことから加工業者の稼働率が下がり、国内米市場が低迷したためジャポニカ米の価格は小幅で下落した。一方で、市場に流通するインディカ米は前年産の古米が主となっているが、保管費用を含めた全体的なコストが高いことにより、古米の価格が支えられ横ばいとなった。2021年7月の全国平均品種別米卸売価格はそれぞれ早稲インディカ米 3,860 元/トン、晩稲インディカ米 4,240 元/トン、一期作ジャポニカ米 4,060 元/トンになっている。

※一類苗:生育が正常な苗、二類苗:通常の苗よりやや小さく弱まっている苗

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位:百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	146.7	148.3	149.0 (149.5)	-	0.5	
消 費 量	145.2	150.3	155.7 (150.0)	-	3.6	
輸 出 量	2.6	2.2	2.4 (2.6)	-	8.1	
輸 入 量	2.6	4.2	3.6 (3.0)	-	▲ 14.3	
期末在庫量	116.5	116.5	111.0 (110.3)	-	▲ 4.7	
期末在庫率	78.8%	76.4%	70.2% (72.3%)	-	▲ 6.2	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	29.69	30.08	30.00 (30.00)	-	▲ 0.3	
単収(もみt/ha)	7.06	7.04	7.10 (4.98)	-	0.9	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)

写真: 黒龍江省の水稲圃場



当該圃場の水稲は成熟期に入っており、前年と同様に9月20日前後に収穫予定。
生産量は前年並みの見込み。

< タイ > 2020/21 年度の輸出量が下方修正

【生育・生産動向】USDAによれば、2020/21 年度(2021 年 1 月～同年 12 月)の生産量は、前月予測から変更がなく 18.8 百万トンと対前年度比 6.2%の増加の見込み。一方、2021/22 年度(2022 年 1 月～同年 12 月)の生産量は前月予測からの変更はなく、対前年度比 3.6%増の 19.5 百万トンの見込み。

同「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2021.9.8 及び 14)によれば、8 月下旬から 9 月上旬にかけて活発なモンスーンが降雨をもたらし、9 月上旬にはサイクロン「conson」に伴う降雨により、これから作付される乾季作向けに土壌水分が補給された。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 16.1%増の 6.5 百万トンの見込みとなり、ベトナムの輸出量(6.4 百万トン)を上回り、インドに次ぐ世界第 2 位のコメ輸出国となる見通し。2020/21 年度の輸出量は、フレート高により輸送コストが嵩んだことで前月予測から 0.2 百万トン下方修正され、対前年度比 1.8%減の 5.6 百万トンの見込み。タイ米輸出業協会によれば、2021 年 1 月から 7 月までの輸出量は、前年同期比 22.4%減少の 258.7 万トン。輸出先国は、南アフリカ(38.5 万トン)、米国(29.4 万トン)、中国(19.6 万トン)の順となっている。

USDA「Rice Outlook」(2021.9.14)によれば、9 月 6 日までの週のタイ産米(長粒、2 等丸米)の輸出価格は、サブサハラ・アフリカ地域からの引き合いやパーツ安により、8 月 9 日までの週より 9 ドル/トン上昇し 401 ドル/トンとなっている。

コメ・タイ

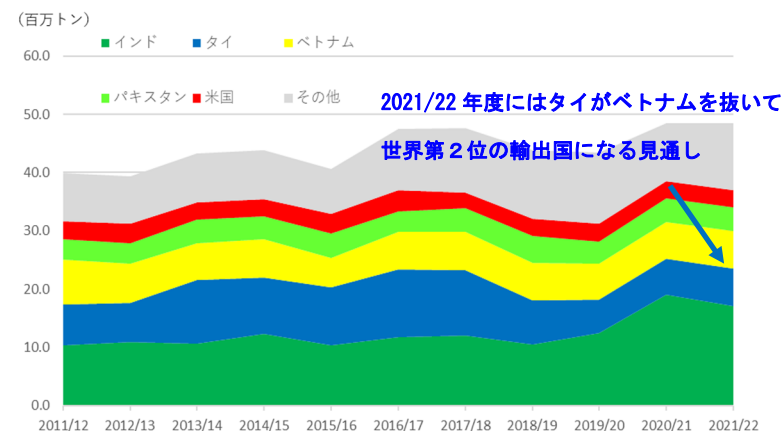
夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

(単位：百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	17.7	18.8	19.5 (19.6)	-	3.6	
消 費 量	12.3	12.7	13.0 (11.9)	0.1	2.4	
輸 出 量	5.7	5.6	6.5 (7.7)	-	16.1	
輸 入 量	0.3	0.2	0.2 (0.3)	-	-	
期末在庫量	4.0	4.7	4.9 (7.3)	0.1	4.2	
期末在庫率	22.1%	25.7%	25.2% (37.3%)	0.4	▲ 0.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.89	10.40	10.50 (10.53)	-	1.0	
単収(もみt/ha)	2.70	2.74	2.81 (1.87)	-	2.6	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)
IGC「Grain Market Report」(26 August 2021) (単収は精米t/ha)

図：世界のコメの主要輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2021.8.12)をもとに農林水産省にて作成

< ベトナム > 秋作コメの収穫がほぼ終了

【生育・生産動向】USDAによれば、2020/21年度(2021年1月～2021年12月)の生産量は、前月予測から変更なく27.4百万トンと対前年度比1.1%増加の見込み。2021/22年度(2022年1月～2022年12月)の生産量は前月から変更はなく、対前年度比1.2%減少の27.1百万トンの見込み。夏秋作コメの収穫はほぼ終わりを迎えている。

ベトナム農業・農村開発省によれば、2021年の夏秋作の生産量は5.8百万トンの見通しであり、2020年の6.0百万トンより3.3%少ない見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比1.6%増の6.3百万トンの見込み。また2021/22年度の輸出量は前月予測から変更はなく、前年度比1.6%増の6.4百万トンの見込み。

ベトナム税関総局によれば、2021年1月から8月の間のコメの輸出量は398.6百万トンとなり、上位をフィリピン(154.3万トン)、中国(73.4万トン)、マレーシア(19.7万トン)が占めている。

USDA「Rice Outlook」(2021.9.14)によれば、ベトナム産米の価格は、新型コロナウイルス感染拡大防止に係る規制や都市封鎖による物流コストの上昇などにより、新規需要が乏しい中であってもこの一か月で上昇し、9月7日までの週の価格は8月10日までの週より15ドル/トン上昇し、395ドル/トンとなった。

ベトナム税関総局によれば、ジャポニカ米の2020年の輸出量は25.6万トンであり、2019年と比較して32.7%の下落。2021年も下落傾向が続き、2021年1月～7月の輸出量は8.6万トンになっている。

コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位：百万精米トン)

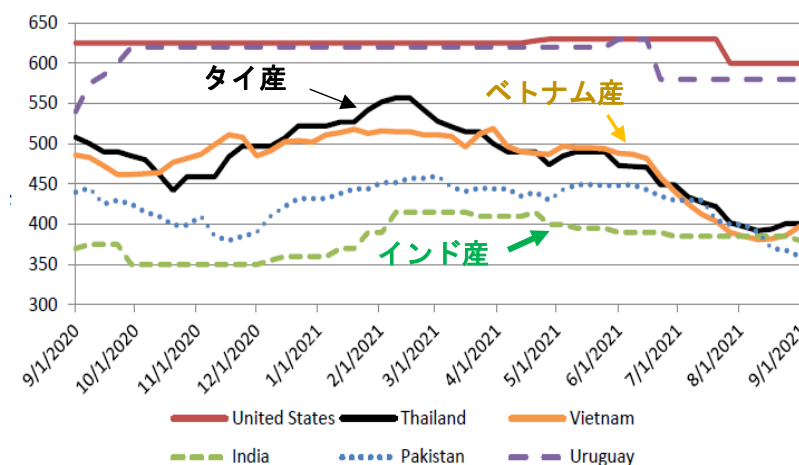
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.1	27.4	27.1 (28.3)	-	▲ 1.2
消費量	21.3	21.2	21.3 (22.6)	-	0.5
輸出量	6.2	6.3	6.4 (6.4)	-	1.6
輸入量	0.4	1.2	0.5 (0.6)	-	▲ 58.3
期末在庫量	1.2	2.3	2.2 (3.2)	-	▲ 4.3
期末在庫率	4.3%	8.4%	8.0% (11.0%)	-	▲ 0.4

(参考)

収穫面積(百万ha)	7.38	7.36	7.35 (7.45)	-	▲ 0.1
単収(もみt/ha)	5.88	5.96	5.90 (3.80)	-	▲ 1.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)
IGC「Grain Market Report」(26 August 2021) (単収は精米t/ha)

図：長粒種のFOB価格の推移(タイとベトナムの輸出価格が同水準)



資料：USDA「Grain : World Markets and Trade」(2021.9.10)

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・カナダ等で下方修正も、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

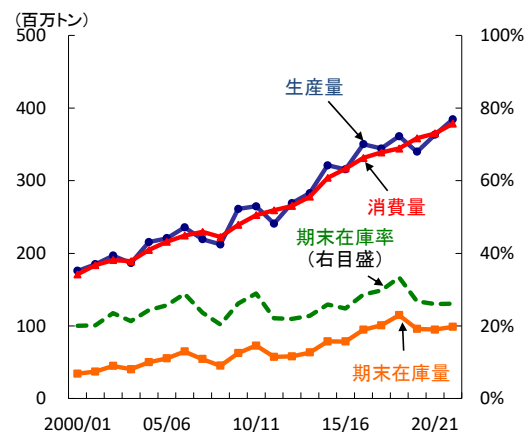
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・バングラデシュ等で上方修正も、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出货量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・米国で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2021.9.10）をもとに農林水産省で作成

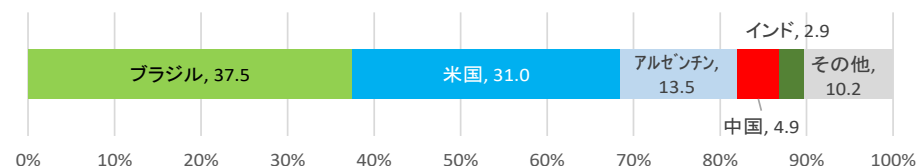
◎世界の大豆需給

(単位：百万トン)

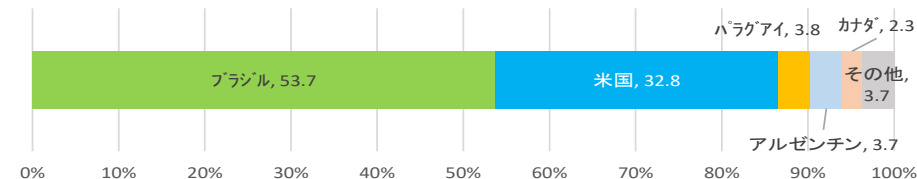
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率 (%)
生 産 量	339.7	363.3	384.4	0.8	5.8
消 費 量	358.4	365.1	378.4	▲ 0.2	3.6
うち搾油用	312.4	318.0	329.4	▲ 0.2	3.6
輸 出 量	165.1	165.7	173.2	0.8	4.5
輸 入 量	165.0	166.7	170.9	0.3	2.5
期末在庫量	95.9	95.1	98.9	2.7	4.0
期末在庫率	26.8%	26.0%	26.1%	0.7	0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（10 September 2021）

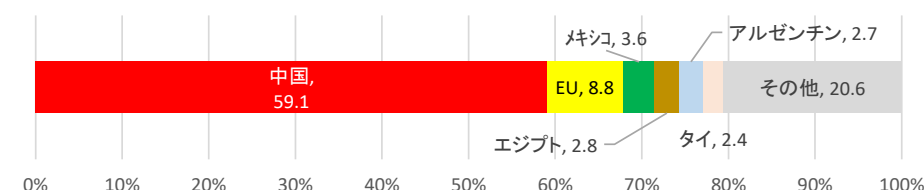
○ 2021/22 年度の世界の大豆の生産量 (384.4 百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸出货量 (173.2 百万トン)



○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸入量 (170.9 百万トン)



（２）国別の大豆の需給動向

＜ 米国 ＞ 収穫面積増、単収上方修正で増産、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、アイオワ州、ミネソタ州等での単収の上方修正が収穫面積の下方修正を上回ったことから、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、前年度より 5.8%増の 119.0 百万トンの見込み。「Crop Progress」(2021.9.20)によれば、主要 18 州における落葉進捗率は、58%と前年度同期（56%）及び過去 5 年平均（48%）より進んでいる。収穫進捗率は、6%と前年度同期（5%）より進み、過去 5 年平均（6%）並みとなっている。作柄評価は、生育期のコーンベルト北西部の高温乾燥の影響により、良からやや良が 58%と前年度同期（63%）を下回っている。

【需要動向】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、飼料用向け大豆粕需要の下方修正から搾油用需要が前月予測から 0.7 百万トン下方修正された。なお、大豆由来のバイオ燃料需要の増加により前年度より搾油用需要を中心に増加することから、消費量は前年度より 2.4%増の 62.6 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の上方修正及び大豆価格の低下に伴い、前月予測から 1.0 百万トン上方修正されたものの、期首在庫の減少に伴う供給量の減少及び国内消費の増加に伴い、史上最高の輸出量となった前年度より 7.5%減の 56.9 百万トンの見込み。

USDAによれば、輸出検証高（2021年1月7日～9月2日）は、20.1 百万トンであり、内訳は中国（7.8 百万トン）、メキシコ（2.7 百万トン）、エジプト（1.4 百万トン）、インドネシア（1.3 百万トン）、日本（1.2 百万トン）の順。なお、8月29日に米国ガルフに上陸したハリケーン・アイダにより一部の穀物輸出施設が被害を受け、一時停電となったため、輸出が遅延している。

USDAによれば、2021/22年度の期末在庫量は、前月予測から 0.8 百万トン上方修正され、前年度より 5.9%増の 5.0 百万トンの見込み。期末在庫率は 4.2%で依然として低水準の見込み。

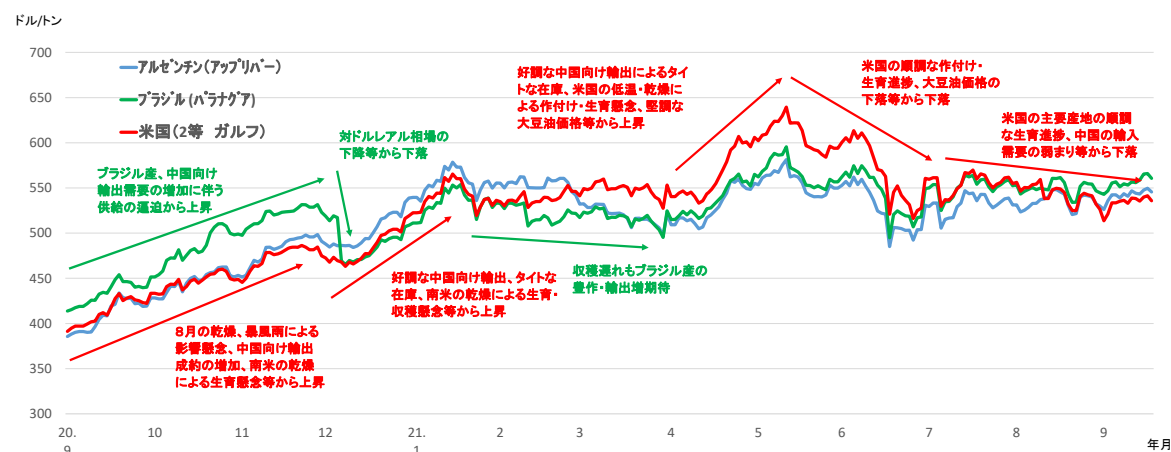
大豆－米国

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	96.7	112.6	119.0	1.0	5.8
消費量	61.9	61.1	62.6	▲ 0.7	2.4
うち搾油用	58.9	58.2	59.3	▲ 0.7	1.9
輸 出 量	45.7	61.5	56.9	1.0	▲ 7.5
輸 入 量	0.4	0.5	0.7	▲ 0.3	25.9
期末在庫量	14.3	4.8	5.0	0.8	5.9
期末在庫率	13.3%	3.9%	4.2%	0.7	0.3

（参考）
 収穫面積(百万ha) 30.33 33.31 34.98 ▲ 0.11 5.0
 単収(t/ha) 3.19 3.38 3.40 0.04 0.6
 資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「World Agricultural Production」(10 September 2021)

図：米国、ブラジル、アルゼンチン大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル > 収穫面積増で史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より5.1%増の144.0百万トンとなり、史上最高の見込み。2021/22年度の作付けは、9月から南部のパラナ州や中西部のマトグロッソ州などで開始されたものの、雨季のまとまった降雨を待って本格的に開始される。

また、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2021.9.9)によれば、2020/21年度の実産量は、前年度より8.9%増の135.9百万トンで史上最高の見込み。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用消費量の増加から、前年度より1.9%増の50.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加と世界的な需要増から前年度より13.4%増の93.0百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021年8月の輸出量は6.5百万トンで、前年同月(5.8百万トン)に比べ11.0%増。2021年1～8月の輸出量は72.7百万トンで、前年同期(74.6百万トン)に比べ2.5%減となっている。内訳は、1位が中国で50.1百万トン、2位がスペインで3.1百万トンとなっている。

ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

2021年2月以降大豆の収穫が行われ、その後、一部圃場で冬とうもろこしを栽培。

2020/21年度	2020年												2021年								
	1月	...	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
夏とうもろこし	リオグランデ・ド・スル州等												収穫 24.7(百万t)								
	作付 4.3(百万ha)												収穫夏冬計 85.7百万t								
冬とうもろこし	作付面積夏冬計 19.9百万ha												作付 15.5(百万ha)								
	マトグロッソ州、パラナ州等												収穫 61.0(百万t)								
大豆	作付 38.5(百万ha)												大豆収穫後の一部圃場で冬とうもろこし播種								
													収穫 135.9(百万t)								

資料：CONAB穀物レポート(2021.9.9)

大豆—ブラジル

(単位：百万トン)

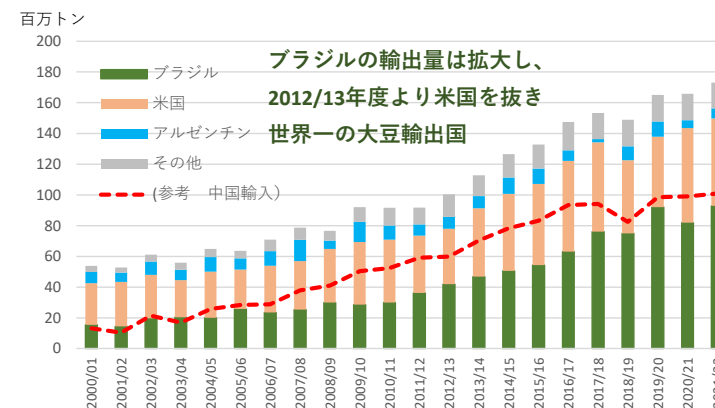
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	128.5	137.0	144.0 (141.5)	-	5.1	
消 費 量	49.4	49.4	50.4 (48.7)	-	1.9	
うち搾油用	46.7	46.8	47.7 (46.2)	-	2.0	
輸 出 量	92.1	82.0	93.0 (92.6)	-	13.4	
輸 入 量	0.6	1.0	0.7 (0.3)	-	▲ 35.0	
期末在庫量	20.0	26.6	27.9 (4.7)	0.5	4.9	
期末在庫率	14.1%	20.2%	19.5% (3.3%)	0.3	▲ 0.8	

(参考)

収穫面積(百万ha)	36.90	38.60	40.40 (39.90)	-	4.7
単収(t/ha)	3.48	3.55	3.56 (3.55)	-	0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)
IGC「Grain Market Report」(26 August 2021)

図：世界の大豆輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2021.9.10)のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ アルゼンチン ＞ 収穫面積増で増産見通しも輸出税継続

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より13.0%増の52.0百万トンの見込み。11月以降に作付けが本格的に開始される。なお、2020/21年度の収穫は7月下旬で終了した。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より4.9%増の50.4百万トンの見込み。なお、2020/21年度の消費量は、パラナ川の水位低下による大豆加工品の輸送への支障から、大豆の搾油コストが増加したことにより前月予測から0.7百万トン下方修正され、48.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より22.1%増の6.4百万トンの見込み。なお、2020/21年度の輸出量は、中国向け輸出の増加から前月予測から1.5百万トン上方修正され、5.2百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021年1～7月の輸出量は2.7百万トンで、前年同期（5.4百万トン）より49.1%減。内訳は、1位が中国153万トン、2位がエジプト60万トン、3位が米国5万トンとなっている。引き続き、7月26日に180日間の渇水の緊急事態宣言が発令されたパラナ川の水位低下に伴うアルゼンチンの穀物等の輸出への影響に注視が必要である。

アルゼンチンは、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆粕については、世界第1位の輸出国である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2021年1月以降、輸出税を大豆33%、大豆粕及び大豆油31%に設定し、現在も継続中。

大豆－アルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	48.8	46.0	52.0 (49.0)	－	13.0
消 費 量	45.9	48.0	50.4 (47.6)	－	4.9
うち搾油用	38.8	40.8	43.0 (41.3)	－	5.4
輸 出 量	10.0	5.2	6.4 (6.5)	－	22.1
輸 入 量	4.9	5.1	4.7 (4.7)	－	▲ 7.8
期末在庫量	26.7	24.6	24.6 (6.9)	▲ 0.7	－
期末在庫率	47.8%	46.2%	43.4% (12.8%)	▲ 1.2	▲ 2.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.70	16.60	17.20 (16.50)	－	3.6
単収(t/ha)	2.92	2.77	3.02 (2.97)	－	9.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(10 September 2021)
IGC「Grain Market Report」(26 August 2021)

< 中国 > 収穫面積減で減産見通し、輸入量は約1億トン

【生産・生育状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.1%減の19.0百万トンの見込み。

中国糧油情報センター（2021.9.5）によれば、8月は産地の天候が温暖で適度な降雨があり、生長に有利となった。中国中央气象台（2021.9.3）によれば、黒竜江省等東北地区は、9月上旬現在、着莢期から子実肥大期に入っている。

【需給動向】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、過去10年間に比べて消費量の増加ペースはペースダウンするものの、前月予測からの変更はなく、前年度より4.6%増の117.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より2.0%増の101.0百万トンで史上最高の見込み。なお、2020/21年度の輸入量は、8月の旺盛な輸入を踏まえて前月予測から2.0百万トン上方修正され、99.0百万トンの見込み。

中国の貿易統計によれば、2021年1～7月の輸入量は57.6百万トンと、前年同期比で4.5%増。内訳は、ブラジル産34.0百万トン（59%）、米国産21.6百万トン（38%）。なお、遅れていたブラジル産大豆の収穫・出荷の進展に伴い、7月の輸入量はブラジル産が7.9百万トンと91%を占めた。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報7月号」によると、7月、国産大豆の消費が引き続き弱まり、高温多湿の天候で大豆製品の保存が容易ではなかったことなどから大豆取引は低迷した。7月の国内価格（山東省の国産大豆工場渡し価格）は前月からほぼ横ばいで、6,060元/トンで依然高水準である。一方、7月の国際価格（山東省の輸入大豆価格）は4,720元/トンと前月から下落し、内外価格差は拡大した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

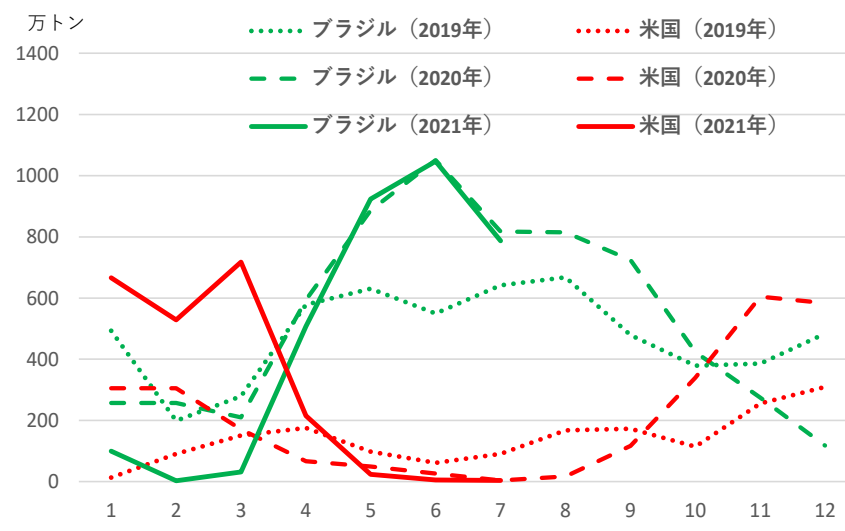
大豆－中国

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	18.1	19.6	19.0 (18.7)	-	▲ 3.1
消費量	109.2	112.5	117.7 (120.5)	-	4.6
うち搾油用	91.5	94.0	98.0 (101.5)	-	4.3
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	25.0
輸 入 量	98.5	99.0	101.0 (102.3)	-	2.0
期末在庫量	26.8	32.8	35.0 (34.5)	2.0	6.7
期末在庫率	24.5%	29.1%	29.7% (28.6%)	1.7	0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.30	9.87	9.60 (9.35)	-	▲ 2.7
単収(t/ha)	1.95	1.99	1.98 (1.99)	-	▲ 0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)
IGC「Grain Market Report」(26 August 2021)

図：中国におけるブラジル、米国産大豆の輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

＜ カナダ ＞ 西部での高温乾燥の影響で減産の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、西部カナダでの乾燥の影響による単収の下方修正に伴い、前月予測から 0.2 百万トン下方修正され、前年度より 7.2%減の 5.9 百万トンの見込み。

なお、カナダ統計局「Model-based principal field crop estimates, August 2021」（2021.9.14）によれば、収穫面積は前年度より 4.8%増の一方、単収は西部カナダの乾燥の影響からマニトバ州等で大幅に減少することから、生産量は前年度より 7.4%減の 5.9 百万トンの見込み。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」（2021.9.21）によれば、大豆生産面積の約 7割を占める東部カナダのオンタリオ州、ケベック州では温暖で雨がちな天候となった。一方、西部カナダの平原 3州では、温暖で乾燥天候が広がった。

産地のマニトバ州クロップレポート（2021.9.21）によれば、収穫進捗率は 13%で、過去 5年平均（17%）より遅れている。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、生産量の下方修正に伴い搾油用需要が前月予測から 0.1 百万トン下方修正され、前年度より 3.2%減の 2.4 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の下方修正に伴い前月予測から 0.1 百万トン下方修正され、前年度より 12.0%減の 4.0 百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会（Canadian Grain Commission）によれば、2020/21年度（2020年8月～2021年7月）の輸出量は 363.7 万トンで、国別では、イラン（86.3 万トン）、イタリア（38.6 万トン）、アルジェリア（35.6 万トン）の順。

写真：西部マニトバ州の大豆収穫中のほ場風景
（9月7日撮影）

大豆－カナダ

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.1	6.4	5.9 (6.0)	▲ 0.2	▲ 7.2
消費量	2.6	2.5	2.4 (2.4)	▲ 0.1	▲ 3.2
うち搾油用	1.8	1.6	1.7 (1.8)	▲ 0.1	0.5
輸出量	3.9	4.5	4.0 (4.1)	▲ 0.1	▲ 12.0
輸入量	0.3	0.5	0.5 (0.4)	0.1	▲ 3.1
期末在庫量	0.6	0.5	0.5 (0.4)	0.1	0.4
期末在庫率	9.7%	6.9%	7.5% (5.4%)	1.4	0.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.27	2.04	2.10 (2.15)	-	2.9
単収(t/ha)	2.71	3.12	2.81 (2.79)	▲ 0.09	▲ 9.9

資料：USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(10 September 2021)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(20 August 2021)



(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2021/22年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	21年6月～22年5月	21年9月～22年8月	21年8月～22年7月	21年9月～22年8月
カナダ	21年8月～22年7月			21年8月～22年7月
豪州	21年10月～22年9月		22年3月～23年2月	
EU	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		
中国	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月
ロシア	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		21年9月～22年8月
ブラジル		22年3月～23年2月	22年4月～23年3月	21年10月～22年9月
アルゼンチン	21年12月～22年11月	22年3月～23年2月		21年10月～22年9月
タイ			22年1月～12月	
インド	21年4月～22年3月		21年10月～22年9月	
ベトナム			22年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2021/22年度は、米国の小麦では2021年6月～2022年5月、ブラジルのとうもろこしでは2022年3月～2023年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)